

平成 26 年 3 月 26 日

会員各位

特定非営利活動法人
神奈川県障害者地域作業所連絡協議会
理事長 海原 泰江

生産振興事業の今後のあり方について

天候不順で遅れていた桜の開花も聞かれるようになってきました。日頃より当連絡協議会の活動にご参加いただきましてありがとうございます。

さて、皆様には 3 月 10 日付で神奈川県から委託されていた【生産振興事業】の予算が甚だしい状況にあり、神奈川県民センターの『ともしびグッズコーナー』の販売活動について平成 26 年度は休止することをお知らせさせていただきました。他の【生産振興事業】の対応についてもこの間、県と協議を重ねてきました。そのうち「地域共同化事業」についてのみ 26 年度は会として受託することを決定しました。

今まで、当会で受託してきた【生産振興事業】は障害者理解の促進や障害者の幅広い社会参加の推進を図ることを目的に、事業所単位にとらわれない活動の場を提供すると共に、事業所が地域住民の身近な施設として、利用者や地域への支援力を高める取り組みを推進してきました。その象徴が『グッズコーナー』の運営でした。『グッズコーナー』は障害者が働くことを体感する場であると同時に、障害者理解の場であり更にはボランティアの力を借り、より県民（市民）力を表現する場としての役割を担っていました。もう一つが様々な機関等が連携し障害者の地域生活を支える活動拠点として地域ネットワークを構築し障害者の生産活動の充実や、製品販売イベント等を行う地域共同化事業でした。

平成 11 年神奈川県から事業の実施要請を受けて以来、当会としては弱輩者でもありながら、機関車を走らせるがごとく次々と新たな活動を展開してきました。昨年 12 月には予算削減の話を受け協議中にもかかわらず【手作り製品のカタログ】が関係者の努力によって、三回目の完成をみることになりました。【生産振興事業】が県の見込み不足による予算形成で大幅な削減を見るに至ってもなお、当会としては障害者の働くことの側面的支援として今後事業の見直しや手法等の検討を行いながら、この一年新たな方向を模索していくこととなりました。

「地域共同化事業」についても今まで以上に地域単位で共同化を推進することが求められています。時代に求められる事業展開をどのように進めていくのか皆様の忌憚のないご意見をいただきたいと思います。

皆様には、グッズコーナーの休止という大変な事態のなか心苦しい限りですが、この状況をご理解いただき、新たな方向をみんなで考えていくことを目的に 26 年度も会員としてご参加、ご協力をお願いする次第です。

敬 具